

企業と交流 経済理解

地域の仕事魅力学ぶ

浜松市西区の浜松大平台高でこのほど、地元企業との交流を通じて、仕事の魅力や地域課題を考える授業が始まった。国際情報ビジネス系列の3年生11人が7月中旬まで、会社員や経営者へのインタビューを実施する。

浜松大平台高で授業



マストレの社員から仕事内容などを聞く生徒ら
＝浜松市西区の浜松大平台高

初回の授業では、西区の不動産会社「マストレ」の原田健一郎社長らが講義や座談会で、仕事内容ややりがいを生徒に伝えた。生徒は今後、マストレと仕事上の付き合いのある市内の店舗などを訪問する。

マーケティングの授業の一環で、生徒に地元企業の存在や地域経済の現状を知ってもらうとともに、コミュニケーション能力の向上を目指す。浜松いわた信用金庫入野支店（西区）やLPガス販売のエネジン（中区）が同校のために企画した。
(浜松総局・柿田史雄)

2022年（令和4年）4月27日（水）静岡新聞